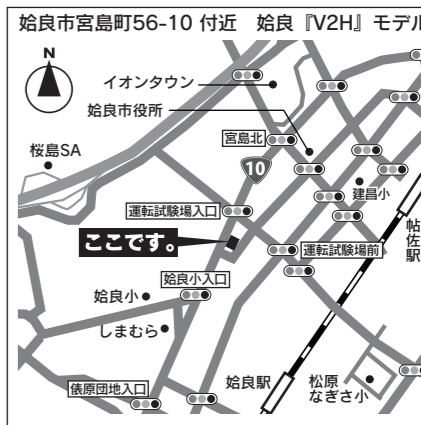


始良『H2V』展示場 公開中!



停電時、車から家へ電気を供給できる『V2H』システム搭載。感染症を提言できる循環空調システムと相乗効果のある設備。鹿児島に家族の日常と健康を守る家が完成しました。

2020年からは、自活エネルギー住宅の本格的なZEH(ゼッチ)の時代を迎えます。『V2H』住宅は、太陽光発電を軸に「自活エネルギー住宅」を実現。住宅とEV自動車とが連結し、家庭用蓄電池の10倍以上の蓄電能を持つEV自動車が、停電時等の家庭用電源としても機能します。

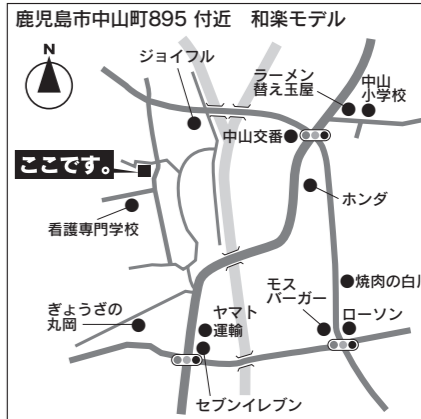
松下孝建設がご提案する近未来型の自活エネルギー住宅を是非ご体感ください。

和楽展示場 公開中!

ハイブリッド・エコ・ハートQ
「エアコン1台、全室低温空調暖冷房」



丁寧に仕上げられた『和』の意匠は
静謐な美しさを
いつまでも『楽』しめる



鹿児島の気候に適した高气密・高断熱と「循環空調」システムの「和」をイメージしたモデルハウスです。一般家庭用のリビングサイズのエアコンで室内空間のすべてが温度差なく、一年中を快適に過ごせます。

高性能樹脂サッシと24時間計画換気で、結露の発生を防ぎ、家族の健康と住宅の高耐久性を実現しました。

ZEH基準を標準クリアした外皮性能とハウス・オブ・ザ・イヤー2013で大賞を受賞した公的にも認められた施工技術の粋。外装、内装共にこれまでの松下孝建設とは少し違う趣を感じてください。

薩摩川内展示場 9月22日まで公開

ハイブリッド・エコ・ハートQ
「エアコン1台、全室低温空調暖冷房」



松下孝建設のHybrid eco-heart Q工法は、充填断熱と外張り断熱のW断熱工法です。

外張り断熱には、遮熱シートが貼られ、住宅が蓄熱されるのを防ぎます。内側の充填断熱は外部の影響を受けにくいので、保冷材として室内の急な温度変化を防ぎ、また、気密性が高いので、室内の涼しい空気が必要以上に外部へ逃げていくのを防いでいます。松下孝建設が標準採用している第三種換気システムは、家全体の空気を動かし、エアコン一台でも温度差の少ない、快適な室内空間を実現しています。

心ゆくまで電

始良「H2V」展示場では、いま必要とする全ての未来技術が体感出来ます!

三菱が開発したV2H技術で、ZEHと自動車と住宅が一体化した未来住宅!

コロナ対策、ZEH+V2Hの家!

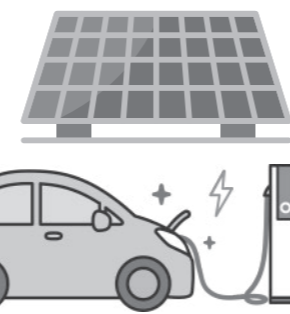
ZEH+家と自動車を繋ぐ「V2H」と循環空調!

太陽光発電で、オール電化の家電を動かしたEV(電気自動車)に充電できれば、太陽光発電による自家発電で、生活が完結します。太陽光発電という地球環境を汚すことのない完全なクリーン・エネルギーで実現する未来を切り開いたのが三菱電機が開発した「スマートV2H」。パワーコンディショナーです。PHV(プラグインハイブリッド)はEVの様に電気をため込むばかりではなく、エンジンで電気を創り出す機能も持ち、悪天候で太陽光発電が稼働しない時には、動力源と蓄電池の働きをします。太陽光発電+「スマートV2H」+PHV又はEVは、系統電力(電力会社)に頼らなくても生活が可能なシステムを世界で始めて完成させたのです。しかし、「三菱」の「スマートV2H」は蓄電池なども一体化していたために本体の価格も高く、太陽

光発電と蓄電池の併用は、売電価格も低下するため、普及しませんでした。しかし、昨年「ニチコン」から低価格品が販売され、しかも蓄電池の代わりにEV(電気自動車)の中古バッテリーが全く問題なく、使用可能なことからEV中古車と共に太陽光の売電期限が過ぎた住宅を中心に一挙にブレイクしています。

格安「V2H」の登場で、一挙にハードルが低下した。一般家庭の1日の消費電力量は8~10kWh程度と言われます。EV用のバッテリーは、定置型蓄電池(住宅用)よりも大容量のバッテリーが積まれており、長時間の給電が可能です。

例えば、日産リーフの最初期車(中古車)でも、24kWhのバッテリーで、これに蓄電すると一般家庭の場合、2~3日分の電力を賄え、生活電力や非常時のバックアップ電源になります。中古EVでも100km圏内なら自動車としても充分使えます。売電が終了してもV2Hを購入し、中古EVに蓄電すれば、太陽光発電を有効に使用することが出来ます。現在は、売電の方がまだ有利なように、深夜電力をEVに蓄電し、日中はEVの電気を家庭で使うなど、様々な節電方法があるようです。



●太陽光発電は系統に販売し、EVと家庭電力を繋ぐ格安「V2H」

低価格(60万円程度)「V2H」が登場し深夜電力をEVに蓄えて、日中の家電はEVに蓄えた電力を使い、太陽光の電力は全量売電にまわすというシステムです。売電価格が安くなった場合は、太陽光発電で系統から独立することも可能です。

●「日産リーフ」の例(バッテリー62KW)



EVとガソリン車の燃料差? EVとガソリン車の燃費差は、どの程度でしょうか?

●ガソリン車とEVの燃費比較

	ガソリン車	EV車
走行距離	1,000km	1,000km
燃費	12.5km/L	9.5km/kWh
コスト	ガソリン代: 130円/L	夜間電力: 12.16円/kWh
1,000km走行に必要な月間コスト	10,400円	1,280円

●月間コストの差額EV 9,120円お得!(太陽光発電なら全0円)

左表は、1千kmの走行距離で比較的燃費の良いガソリン車(12.5km/L)に対し、EV車(9.5km/kWh)と比較した燃費の差があります。EVの燃費の良さは際立っています。このように初期投資はガソリン車よりも大きくなりますが、最初からEVやPHV車を選ばれる方も多くなっているようです。

コロナ対策に強い第三種換気と第一種換気の違い? 松下建設の住宅が他社の住宅と最も異なるのは、第三種ダクト式計量換気の採用と給気口に帯電フィルターを採用していることです。さらに、全館「エアコン1台の暖冷房で賄えること」を備えていることです。ほとんど施工店が「第一種全熱交換換気」を設備し、中には第三種など過去の設備だと言う施工店も多いと聞きますが、高性能住宅の本場、北欧では現在も第三種換気が最も一般的です。しかも第三種換気は、住宅性能が悪ければ機能しません。なぜならば各居室に最低6カ所も直径10センチの給気口を開けるからです。立派な第一種換気がついているにもかかわらず、定期的には窓を開ける様に指示されるのは、窓を開換気の場合、全館が給気口10cmからの空気と排気口10cmのたまった20cmの開口から換気を行うので、フレッシュ空気が不足してしまうのです。第三種換気の場合は、各居室に帯電フィルターから、常に窓を開けているのと同じようにフレッシュ空気が入ってきます。帯電フィルターは普通のフィルターのように空気を塞ぎません。そのため、気密性能C値0.5以下が必須の条件になります。第三種換気が計量換気と呼ばれているのは、信頼の証でもあります。

松下建設の「循環空調」システムは、業界に先駆けて開発した独自の工法。どんな高性能住宅を建てても、住宅の上下左右には、温度差が生まれます。暖冷房が行き届かない部分の温度差は、不快なばかりでなく、脳血管疾患や心臓疾患などの成人病や子供たちの風邪などの発症原因になってしまいます。住宅の中に温度差を作らない工法を求め、試行錯誤を重ね、ようやく完成したのが始良「V2H」展示場です。空気を全量清潔な循環させると共に、空気清浄器が取り付けられており、空気が循環すればするほど空気質がきれいになります。「循環空調」と「第三種換気」+「空気清浄器」の働きで理想の空気環境を作り上げました。是非、ご家族皆様でご体感ください。

0120-079-089